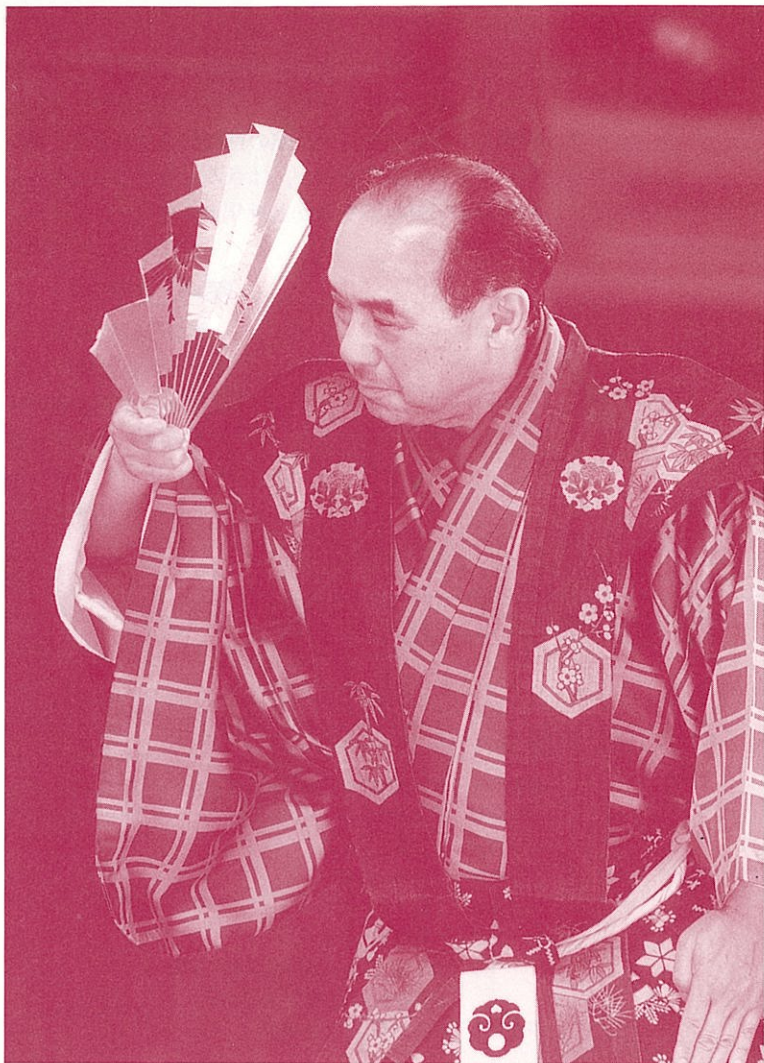


横浜能楽堂第1回普及公演

夏休み

狂言鑑賞会

[大蔵流]



◇日 時◇

8月20日(火)

午後2時開演(午後1時30分開場)

◇会場◇

横浜能楽堂

●桜木町駅 (JR線・東急東横線・市営地下鉄線)

下車 徒歩15分

●日ノ出町駅 (京浜急行線)

下車 徒歩18分

●バス「紅葉坂」「戸部一丁目」

下車 徒歩5分

◇入場料◇ (全席自由)

大人 2,000円

小人 (中学生以下) 1,000円

◇番組◇

狂言「かにやまおし蟹山伏」

山 伏：茂山千五郎

強 力：茂山 正邦

蟹の精：茂山 茂

狂言「よびこえ呼 声」

太郎冠者：茂山千三郎

主 人：丸石やすし

次郎冠者：茂山 茂

◇チケット販売◇ 横浜能楽堂チケット売場／午前9時から午後8時まで

電話予約 ☎045-263-3055

7月9日(火) 午前9時から発売

◇問合せ◇ 横浜能楽堂 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2

☎045-263-3050



横浜能楽堂

あらすじ

蟹山伏 (かにやまぶし)

修行を終えた山伏が、強力(従者)をともなって帰り道を急いでいると、突然、得体の知れないものが飛び出てきます。山伏と強力はびつくりしますが、山伏がおそるおそる何物だと尋ねたところ、蟹の精だとわかります。蟹と聞いて元気づいた強力は、金剛杖で打ちかかりますが、はさみで耳をはさまれてしまいます。そこで山伏は、自慢の行力で離してやろうと祈りますが……。

呼声 (よびこえ)

無断で旅に出ていた太郎冠者がこっそり帰ってきていると聞いて、怒った主人は、次郎冠者を連れて太郎冠者の家へ行きます。太郎冠者はその様子を察して、居留守を使い、次郎冠者が呼んでも出てきません。主人が作り声で呼ぶと、太郎冠者も作り声で答えます。平家節、小歌節と調子を変えて呼ぶと、太郎冠者も同じ節で答えます。そこで、主人と次郎冠者が踊り節を謡うと、太郎冠者も踊りながら答え、ついには三人で踊り狂います。

プロフィール

茂山千五郎 (しげやま せんごろう)

- 昭和20年 四世茂山千作の長男として生まれる
- 25年 「以呂波」のシテで初舞台
- 36年 「三番三」を抜く
- 40年 「釣狐」を抜く
- 50年 「花子」を抜く
- 55年 「狸腹鼓」を抜く
- 61年 60年度「京都市芸術新人賞」受賞
重要無形文化財保持者に認定
- 平成6年 十三世茂山千五郎襲名

茂山千三郎 (しげやま せんざぶろう)

- 昭和39年 十二世茂山千五郎の三男として生まれる
- 42年 「業平餅」の童(子方)で初舞台
- 55年 「三番三」を抜く
- 59年 「釣狐」を抜く

茂山 正邦 (しげやま まさくに)

- 昭和47年 十三世茂山千五郎の長男として生まれる
- 51年 「以呂波」のシテで初舞台
- 61年 「千歳」を抜く
- 平成元年 「三番三」を抜く
- 5年 「釣狐」を抜く

茂山 茂 (しげやま しげる)

- 昭和50年 十三世茂山千五郎の二男として生まれる
- 54年 小舞「柳の下」で初舞台
- 平成5年 「千歳」を抜く
- 6年 「三番三」を抜く

丸石 やすし (まるいし やすし)

- 昭和49年 茂山千之丞に入門、初舞台
- 59年 三笑会(狂言勉強会)結成
以後、三笑会で年5回の勉強会を催す

交通案内図

